習ってよかったをすべての人へ　Issued by Learning Studio Azamino　2017年7月1日 発行　第48号

月刊 語学のススメ新聞 7月号

Hello!! from the UK!!～Chiko's column～

みなさん、こんにちは。いかがお過ごしでしょうか。日本は本格的な夏直前！！という感じでしょうか。こちらはまだ、夜になると少し肌寒い日が続いています。(先週は30度以上の日が何日か続いていましたが、またいつも通りの気候に戻りました。)

さて、今月は少しだけいつもと違うお話です。皆さんは、先月起きたロンドンのテロ事件(6月3日午後10時)を覚えていらっしゃいますでしょうか。少し説明すると、先月、ロンドンのLondon Bridge（ロンドン橋）周辺でテロリストが車でロンドン橋上で人々を次々と跳ね、さらに同時刻に、違うグループのテロリストが近くのマーケットにいる人々を次々に刺し殺すという本当に残忍で悲しい事件が起こりました。すぐに駆けつけた警察によりテロリスト達は、射殺されましたが、多くの方々が命を落としたり、怪我を負ったりしました。

←素晴らしい景色のロンドンブリッジ

実は、そのテロが起こった時、私はロンドンブリッジにいたのです。私は友達と久しぶりに会い、ロンドンブリッジで夜ご飯を食べました。そして、近くにある Tate Modern（現代美術館）に立ち寄り、2時間ほどおしゃべりをしながら楽しみ（話は変わりますが、現代美術館も入場料はもちろん無料！とっても見応えがあり、オススメです！）、さぁ、10時になったので美術館をあとにし、London Bridge Station に向かっていたその時テロが起こりました。人々が前からいきなり走ってきて、「逃げろ、逃げろ！！」と叫びながらこちらに走ってきました。最初私と友達はワケが分からず「なに？映画？」と、話していましたが、前から来る人々が本当に泣き叫びながらこちらに逃げてきているのを目の当たりにし、「あ、これはただ事ではない、私たちも早く逃げよう。」と思い必死に逃げました。もうあたりはパニックになっていて、何が何だかわからない状況で、こちらもパニックになりそでしたが、落ち着くように心がけました。そして、何が起こっているのか周りの人に聴きながら、さらに何も知らないで駅の方に向かう人に「そっちには行かない方がいい」と教えたりしながら、なるべく現場から離れるようにしました。私たちは、London Bridge から少し離れた駅にたどり着きました。私の友達は西の方に住んでいたため、すぐ電車に乗れると判断し、すぐ電車に乗り帰りました。問題は私。私もその時一緒に友達の家にその日は泊めてもらえばよかったのですが、何が何だかはっきりと把握できていなかったので（情報が錯乱していました）、もう少し離れた駅から電車に乗れば、帰れると判断し、私はもう一つの駅まで向かいました。ただ、私の家は南東にあり、テムズ川を渡らなければなりません。事件現場は London Bridge 周辺だったので、警察がすべての周辺の道路さらに橋すべてをブロックし始めました。なので、私がもう一つの駅に着き、電光掲示板を見た瞬間、全て運転見合わせの状態に変わりました。「あぁ、どうしよう、うちに帰れない。」情報が錯乱していたのと、私も逃げるのに必死だったのと、頑張って落ち着こうとしていたのが一気に重なり、さらに、家に帰れないという事実から、一気に怖くなり、一人駅の前に立ち尽くしていました。タクシーも使えない。「もう歩くしかないな。」と思って腹を決め、歩き出そうとした瞬間、一人の若い女性が「Are you OK?(あなた大丈夫？)」と声をかけてくれました。その瞬間何故か私は、一気に何かが溢れ出し「Actually I'm not OK(いや、大丈夫ではないです)」と半泣きになり答えていました。そしたらその女性は「どこに住んでいるの？私はこっちだけどあなたは？」と聞いてくれました。その女性と幸運にも方向が同じだったため、その女性は「じゃあ、一緒に歩きましょう。二人の方が安心でしょ？」と言ってくれ、一緒に歩くことにしました。しばらく歩いていると、50代ぐらいの女性が、私たちに話しかけてきて、その女性も同じ方向だということがわかり、一緒に歩くことにしました。歩いていると、他にも何人も同じような状況の人と出くわし、情報を交換し、私たちは歩き続けました。そうすると、さっきからずっと誰かに電話しながら一緒に歩いていた50代の女性が「私の夫がタクシードライバーで、今連絡が繋がったから、どこかで落ち合いましょう」と提案してくれたのです！「あぁ、本当に助かった。」と私は思いました。しばらく歩き、その女性の旦那様と落ち合い、タクシーに乗せてもらい、家まで送り届けてもらいました。家に着いた時間は午前2時。家に着いた後、すぐにニュースを確認し、「あぁ、無事でよかった。数分違ったら、本当に殺されていたかもしれない。」と思い、ショックを受けました。

今回の体験を通して改めてわかったことは、テロに遭遇しましたが、みんなが本当に助け合っていたという事実。そして、テロというのは本当にいろんな人々にショックを与える本当に恐ろしいことだという事実。そして、いつでもどこでも、自分の命は自分で守るという自覚です。やはり、海外に出ると、日本にいる時よりは警戒心をかなり抱きます。それは、何と言っても日本は本当に平和な国だからです。（もちろん日本でもいろんな事件はありますが。）そして、やはり英語を通して、現状を把握し、自分の命を守り冷静でいるというのは、緊張状態では意外と難しいということを痛感しました。どこにいても、自分の命は自分で守らなければなりませんが、やはり、海外に出た時は、より一層その意識を上げなければならないと感じました。今回の私の体験をコラムに書きみなさんに伝えようかどうか、迷いましたが、伝えることに決めたのは、やはり海外に出る素晴らしさ（今回の体験でも素晴らしい人たちに出会い、助けられました。）、そして、危険もつきものだということを改めて伝えたいと感じたからです。

これから、海外に旅行や、留学で出られる方も多いと思いますが、本当に安全第一！で、思いっきり楽しんでいただけたらと思います！では、また来月！！Chiko

元気が出る‼　今月のおすすめの一冊。

みなさんこんにちは。梅雨だというのにあまり雨も降らず、いつもよりは割と過ごしやすい日々が続いているように感じます。ただ生徒さんの中には畑をやっていらっしゃる方もいて、今年は雨が降らないせいで野菜の生育も芳しくなくちょっと心配だそうです。同じ天候でも、立場や見方によって違った受け止め方になる。これって色々なことに当てはなりますよね。例えば同じ失敗をしたとしても、その事実に囚われてますます失敗のスパイラルに嵌ってしまう人と、逆にそれを学びのチャンスとして捉えそこから成長していける人の違いってあると思います。身近な例でいえば英会話の習得でも、間違えずに話し続けてレベルアップした人なんてどこにもいません。間違えてそこから学ぶことを繰り返しているうちに上達していきます。間違えるたびに「また勉強した、また成長した」と考えレベルアップしていきます。それに対して「まちがえた→やっぱり俺はダメなんだ(できない自分をイメージ)→ああ、やっぱり間違えた(確認)」と考えしまい、マイナスのスパイラルに入って自ら失敗を引き寄せてしまう方もおられるようです。そこで今月はそんな失敗から大きな学びを得た方の紹介をします。**『オーケストラ指揮法』総合法令出版**の著者、**高木善之**さんです。現在の高木さんは「ネットワーク地球村」の代表を務めていますが、その前は松下電器(現、パナソニック)の大合唱団の創立者で、初代の常任指揮者だった方です。いわば凄腕の指揮者で、幼い頃から音楽が好きでピアノ、声楽、作曲を学び、学生時代には中学 3 年生の時 NHK コンクールで優勝、大阪大学男声合唱団の指揮を 4 年間務めコンクールで上位入賞…、と輝かしい成績を収めて来ました。そして松下電器入社。地道な努力で大合唱団を創立させます。創立から数年のうちにランキングは上がりましたが、しかしどんなに苦しい努力をしても、もう一歩のところで優勝はできない。悔しさ、無念さ、憤り。そんな気持ちを振り払うかのように厳しい練習を繰り返し、そして気分も荒んでいきました。

そんな時期、高木さんは大きな交通事故に遭ってしまうのです。3 日間の意識不明の後、ようやくとりとめた命でした。首の骨の損傷。骨盤がバラバラに割れ、右足が付け根から外れ、右足の骨動脈は 4 本とも切断。左肩の肩関節剥離骨折に右足の膝間接骨折など。それに加えてピアノを弾くために一番大事な手首は粉砕骨折。切断寸前です。これが夢であってほしいと願う高木さんでしたが、激しい痛み、高熱、苦しさが、夢ではないことを知らせるのでした。事故当時高木さんはまだ 33 歳。元どおりの自由な体に戻れる可能性は 1%もない現実。何もできなくなってはじめて、高木さんは「なぜ、もっと大切に生きなかったのか」ということに気づくのです。次々と先送りにしてきたことについて、「あの時、なぜあれをしなかったのか」と悔やまれることがたくさんあることに驚きます。家族旅行を、子供との触れ合いを、合唱団のみんなにもっと優しくすることを、あの音楽の研究を、あの音楽の完成を、あのコンサートの実現を、あの人との仲直りを、あの人との友情を、あの人への信頼を…なぜしておかなかったのか! 自分はこれまで一生懸命生きてきたつもりだったが、なんともったいない生き方をしてきたのだろうか! 一生懸命生きるというのは、いつ死んでも悔いのない生き方をすることなのだということに、あらためて気付かされるのでした。2 週間、3 週間がたち、痛みが和らぎ、生活にも慣れてきました。面会時間が終わり一人になれば、ぞっとするような長い夜がやってきます。寝たきりの高木さんにとってできることは、「考えること」以外にありませんでした。そして、生き方を根本から変える、自分との対話が始まったのです。

もう一人の自分 : A, 自分 : B
A: どうしてコンクールで勝ちたいの?
B: 当たり前じゃないか
A: なぜ?
B: 誰だって勝ちたいじゃないか
A: 君は、どうして勝ちたいの?
B: 努力を報われたいから
A: どうして報われたいの?
B: 当たり前だろ
A: どうして?
B: 当たり前だろ、じゃあ、何のために努力するんだ!
A: なんのために努力するの?
B: 音楽をしたいから
A: どうして音楽をするの?
B: 好きだから
A: じゃあ、好きなようにしたらいいんじゃない?
B: それだけじゃダメなんだ
A: どうして?
B: 自己満足ではダメなんだ、みんなから認められなければ
A: どうして?
B: みんながダメだと言えば、自分の満足は無意味だから
A: どうして?
B: みんながダメだと言えば、自分もダメだと考えるようになるから
A: どうして?
B: ……
A: あらためて聞くけど、どうして勝ちたいの?
B: 有名になりたいから
A: どうして?
B: 尊敬されたいから
A: どうして?
B: 認められたいから
A: どうして?
B: いい音楽がしたいから
A: やったらいいじゃない?
B: ……
A: あらためて聴くけど、どうして勝ちたいの?
B: みんなを喜ばせたいから
A: 喜ばせたらいいじゃない?
B: どうやって?
A: どうやったらみんなが喜ぶの?
B: 好きな音楽を好きなように演奏してコンクールに勝つこと
A: ぜいたくだね、それって可能?
B: 無理だと思う
A: じゃあ、その中のどれを選ぶ?
B: だから、コンクールに勝つための苦しい練習を続けているんだ
A: みんな喜んでる?
B: 今は喜んでないけど、喜びを目指して努力している
A: ほんと?
B: ……
A: だったら、好きな音楽を好きなように演奏すれば?
B: ……
A: どうして勝ちたいの?
B: 指揮者として当然のこと
A: 指揮者って何?
B: 自分の目指す音楽を、楽団員全員の協力で実現すること
A: そんなことをみんなが望んでるの?
B: ……

このような自分との対話が何週間も続くなかで、高木さんは自分が信じてきたこと、自分が当たり前だと思ってきたことは、ほとんどが自分勝手な思い込みであり、冷静に考えればおかしなことだと気がつきます。勝ちたいからじゃない。音楽が好きだからやっているんだ! ピアノが好きで好きでたまらなかった。だからピアノを始めたんだ。歌も好きになって、一人で歌うよりもたくさんで歌う方が楽しいから、合唱を始めたんだ。みんなもそうなんだ! 歌うのが好きだから、合唱が好きだったから集まってきたんだ! それなのに僕は…、みんなの楽しみや自由の邪魔をしていたんだ。

こうして高木さんは、二度と指揮ができなくなってから(当時の思い)、指揮者として目覚めていきます。

ここまでの話は高木さんの社会復帰への途中です。この後、全く別人格の指揮者として見事なカンバックを果たします。感動間違いありません! ぜひ本書を読んでみてくださいね。　　まとめ　小林義和

To apologise/ To apologize『お詫びをする』

本日は、お詫びをする時の表現です。生徒さんがレッスン内でお詫びをするという状況は、レッスンに遅れた時、宿題をやって来なかった時 (笑) 等だと思いますが、どのような言い方をしてますでしょうか？
“(I'm) sorry I'm late.” “(I'm) sorry for being late.” でしょうか？ どちらも OK ですが、もう少し丁寧にすると、、”I am sorry to have kept you waiting.” 焦ってる時にこれはちょっと長すぎますか？笑
I'm sorry to be late.と言う言い方がありますが、一見正しく聞こえますが、”(I'm) sorry to...”と言う不定詞の形は **sorry** が前に来ると、「すみませんが、(これから) …します。」のように聞こえるので、もう起きてしまった事にはおかしいです。
引き続き待たせてしまう可能性がある状況（例えば仕事場での電話、または忙しいレストランの接客等）は “(I'm) Sorry to keep you waiting.” でも良いですが、用事が済んで、もう待たせない状況の時は “(I'm) Sorry to have kept you waiting.” “(I'm) Sorry, I kept you waiting.”が良いようです。しかしながら、謝り過ぎる国民として有名な日本人は、”Thank you for waiting.”でも良いかもしれませんね:) ”(I'm) sorry to...”の使い方ですが、、これから行う時にお断りの時によく使います。”(I'm) Sorry to interrupt, but ...”「お話中すみませんが、、、」”(I'm) Sorry to bother you.” 「お忙しいところすみません。」既に起きてしまった (起こしてしまった) 事に対しては”I'm sorry for/ about 事柄.” で良いと思います。　　Rie